

論壇

政治家にとっては魅力

少し前に読んだニューヨーク・タイムズ紙の記事に、トランプ大統領はTARIFF (タリフ 関税) が好きだというようなコメントが出ていた。1980年代にまだビジネスマンであったころからしばしば、テレビなどで日本からの輸入に関税をかけるべきだと発言していたようだ。その意味では、その姿勢は一貫している。

経済学者の世界では、輸入に高い関税をかけることは国全体にとって好ましいことではないということが常識になっている。トランプ大統領に関税引上げを吹き込んでいる経済顧問は、学会では主流

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

ではなかった人だ。

それでも、政治家にとっては関税を引き上げるとは、時として魅力的なことのように見えるようだ。鉄鋼やアルミに関税をかけたことで、ラストベルトと呼ばれる工業地域の工場は息を吹き返しつつある。そうした地域では、トランプ大統領が関税を引き上げたことは好感をもって受け止めら

る。つまり、非常によく見える。

他方で、関税を引き上げることによるデメリットは経済全体に薄く広がる。つまり、一般の人にはよく見えない。大統領にも、この関税引き上げを評価する声ばかりが聞こえてくるのだろう。

米中の関税引き上げ戦争を見ていると、トランプ大統領は関税を引き上げることを選んでやっ

けることをむしろ喜んでいよう。ところが見える。

「中国の貿易はフェア(公正)ではない」と発言する米国の人は少なくないが、その中国が困るところを見てひそかに喜んでい人も少なくないのかもしれない。さらには、経済や安全保障面で米国の覇権を脅かす存在になった中国が困るところを見たいと考えている米国の人もいるだろう。

感情的側面否定できず

れている。鉄鋼やアルミに関税がかかれば、そうした製品の米国内でのコストは上昇する。これは決して好ましいことではないが、このマイナス効果は経済全体に薄く広がるので、その影響は見えにくい。

関税を引き上げることのメリットは特定の産業や地域に集中する。米国を見ていると、関税を引き上げること中国経済が悪影響を受

こうした感情が先行して関税引き上げ戦争が行われるのは困ったことだが、いまの米中経済戦争では、こうした感情的な側面が小さくないように見える。そうした雰囲気を感じているトランプ大統領としても、強気で押していくことが有効と考えているのかもしれない。

いまのような関税引き上げを続けていけば、米国が輸入する中国産の製品の価格も高くなってしまう。関税引き上げによる被害が次第に米国にも広がるはずだ。いつまでも関税率を高いままにしておくことは難しいだろう。ただ、そうした関税の被害が米国内で感じられるようになるまでにはある程度の時間がかかる。それまではトランプ大統領のいさましい掛け声はなかなか収まらないようにも思える。

そうは言っても、感情だけでなく理性が働くことを期待したい。理性的に考えれば、一刻も早く関税戦争を終わらせることが、両国にとって、そして世界経済にとって必要であることは明らかなのだが。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

トランプ大統領と関税